

平成 27 年 8 月 28 日

説明会参加者各位

一般社団法人
全国上下水道コンサルタント協会

「下水道用設計標準歩掛表 平成27年度－第3巻設計委託－」
説明会における質疑の回答について

平成27年6月25日、26日開催した標記説明会における質疑について、公益社団法人
日本下水道協会と調整した結果、以下のとおり回答します。
よろしくお取計い願います。

水コン協主催 下水道用設計標準歩掛表説明会の質疑応答回答

No.	ページ	質 問	回 答	備 考
1	109	開削の延長補正で2種類以上の管径…とあるが、推進工法「刃口」と「中大口径」の場合、2種類以上と判断してよいか？	回答を保留します。	
2	103 104	耐震レベル1とレベル1・2を混在して同時委託する場合は、レベル1とレベル1・2両方の歩掛を用いるのか？またどのように考えるのか	耐震レベル1とレベル1・2を混在して同時委託する場合は、本体の補正は、総延長に対する補正が基本となります。また、総延長に対する延長割合を求め、各々表－I－17－1又は表－I－17－3のどちらかを付加することになります。	
3	185	簡易診断の路上からの目視調査は、どのように行い、何が分かるのか？(ある程度の人工の計上があるが)	代表的なマンホールのふたを開けた上で、目視により管路施設のマンホール及び管口の状況を把握するとともに、異常箇所を早期に発見することを目的に実施する業務になります。	
4	185	簡易診断で耐震計算は行うのか	基本的に簡易診断時に耐震計算は行わないと考えます。	
5	185	簡易診断の成果品はどのようなものか？(5か年の緊急整備計画と内容が重複しているように感じる)	成果品はP200及びP204を参考にしてください。既に存在する資料の再掲や引用も許容しております。	
6	187	白本P187(ハ)特殊構造物の定義について、形状や寸法の記載が必要ではないか？	歩掛が掲載してあるP191に適用(特殊構造物の定義)が記載してありますので参考にしてください。	
7	192	耐震計算による性能の定量的評価について、「雨水・汚水共」と「合流、分流汚水(雨水)のみ」で分けている意味合いは何か？診断するのにどうして排除方式を区別しているのか？	排除方式により耐震診断の定量的評価の作業量は異なりません。本歩掛は排除方式による区分ではなく、同一路線内の雨水と汚水の両方を評価する場合と個別あるいは合流を評価する場合とでは、作業量に差異が生ずるため区別しています。	
8	244 ～ 246	マンホール、取付管・ます、マンホール蓋の補正について検討した場合は必ず補正を行うのか？何%見ればよいのか？	マンホール、取付管・ます、マンホール蓋の補正について検討した場合は30%を上限に設計者の判断で割増すのが基本となります。日本下水道協会に問い合わせがあった場合は、対象施設に応じて10%,20%,30%を割増すよう指導しております。	

※ページは、「下水道用設計標準歩掛表 平成27年度－第3巻 設計委託－」の該当ページを指します。